

輸出事業計画

※申請者名：全国納豆協同組合連合会 品目：納豆

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 人口減少による納豆の国内需要減少と、今後の海外市場での日本食需要の増大という背景から、各会員の輸出拡大に資する活動（団体ＨＰの英訳や国際規格申請等）を開始した。
 - 2012年8月に、納豆連のホームページの一部の英訳を行い公開。
 - 2014年8月より、消費者保護、公正貿易の確保を目的に、納豆連の流通部会を中心に納豆コーデックスの規格策定を行っている。

【課題】

- 昨今の資源価格上昇や円安に伴い、原料大豆の大半を占める米国産大豆の調達コストが増大している。
- 納豆に関する国際規格がなく、国内製造の納豆の品質の国際的な証明がなされていない。
- 中国や韓国といった比較的納豆食の受容性の高い国からの、福島原発事故を起因とした放射能汚染の風評による輸入規制が未だに解除されていない。
- 流通過程の温度変化により、製品劣化が起こる可能性があるため、納豆の販売量（輸出量）が輸出先国のコールドチェーンが確立されているか否かに依存している。
- 韓国などを例に、今後コールドチェーンが確立されたインフラを有する国においては、納豆需要の高まりに伴い、自国で製造する事業者が台頭してくることが予想される。

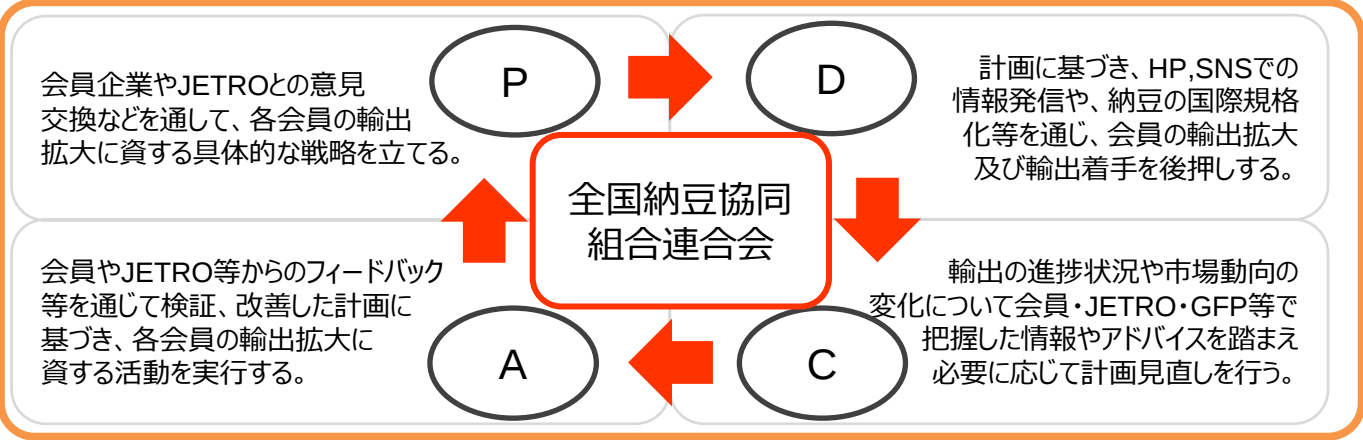
2. 輸出事業計画の取組内容

- 円安リスクやエネルギー資源の高騰に対して、リスク情報などを即時的に会員各社と共有するシステムを構築することで、急な原材料コストアップに備える。
- 国内製造の納豆の優位性確保、市場内の劣悪な商品の排除を目的に、納豆コーデックスをコーデックスアジア部会で検討中であり、タイ、韓国などと協議を進める。
- 国内製造の納豆が安心加工食品であるという事を、国とも歩調を合わせ、ホームページ等で広報活動を行う事で、理解促進を図る。
- ホームページを多言語対応することにより、冷凍販売されている納豆の解凍の方法やその納豆の食べ方等の啓蒙活動を行う。
- 輸出先国の郷土料理にスペックインしてもらうための映像を作成し、Youtubeなどで映像配信を行う。
- 日本で育まれた納豆の発酵技術（徹底した品温・醗酵室温の管理）を会員各社内でも相互共有、フィードバックをすることで、業界内でノウハウ、人材を輸出資本として蓄積・育成し、国産大豆・製品の輸出拡大に繋げる。

輸出事業計画

※申請者名：全国納豆協同組合連合会 品目：納豆

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	【現状】 (令和3年)	【目標】 (令和7年)
輸出額（千円）	1,685,216	2,240,000
輸出量（t）	3,227	4,300
主な輸出先	中国・台湾・米国ほか 全世界計	中国・台湾・米国ほか 全世界計